

人生の心の絵図としてのシモキタ

平成19年1月11日

原告 石坂悦子

1. はじめに

私は、この原告の一人で石坂悦子と申します。私は、北沢3丁目で箏の教室をやっています。

2. 人生の心の絵図としてのシモキタ

私は、1972年にこの地に嫁いできました。

その年の前年の暮れに、役者仲間の彼が、一番街商店街にある「玉井屋」という煎餅屋の隣に「独」というロックを聞かせる店を始めました（写真資料1）。彼に「手伝ってくれよ！」といわれてシモキタに通う内、ついでに結婚してしまいました。

あの頃は、いま本多劇場がある土地がまだ更地だったので、アングラ劇団の「黒テント」や「赤テント」の芝居がかかっていました。うちの店は打ち上げ会場として賑わい、「黒テント」の斎藤晴彦さん、清水紘治さん、「赤テント」の小林薫さんなどが店の椅子を暖めていました。

そのころから、街には若者が好む店がたくさん出来はじめました。

うちの店でバイトをしていた大学生は青森、岐阜、愛媛などに帰り、実家をついだり、故郷で職についています。私たちが経営していた店は、諸事情によりたたむことになりましたが、あれから30年以上が経った今も、彼らは「息子たちがシモキタに遊びに行きたいと言っているので案内してやってくれないか！」と電話をかけてきます。

彼らが自分の人生を決める上で、シモキタが心の絵図として大きな役割を果た

したところだったから、「息子達にも見せたい、感じてもらいたい」と思っている
のでしょ

3. 下北沢は区の財産

私が今日、この下北沢再開発問題を考えるとき、今「東京に行ったら訪ねて見
たい町」の上位に名をつらねる下北沢の町を創る一端を私は担った、という思い
と誇りがあります。

当時の若者たちの、故郷へのノスタルジー。人の力、人の入れ代わり、人の足
跡等によって出来た今のシモキタという遺産を、二子玉川、三軒茶屋のようにし
てしまってよいのでしょうか（写真資料2）。

世田谷区は、今のシモキタこそが区の財産であると考えられないのでしょ
うか？

4. さいごに

この再開発道路のために 800 億近いガソリン税が導入されると聞きました。

今、社会は格差が広がり、働いても報われない「ワーキング・プアー」や、障害
者の人が「普通の人並の生活がしたい」と悲鳴をあげています。たくさんの方が
「いない」と言っている道路をどうしても作りたいわけを、みなが納得出来る
形で説明してほしいです。

一部の利権者とゼネコンに私たちの街を勝手にされてしまう事の無きよう、裁
判所の判断を頂きたいと思います。

以上



1. 仲間たちと、「独」の前にて。



2. 70年代の一番街栄通り。
今と変わらない街並み。